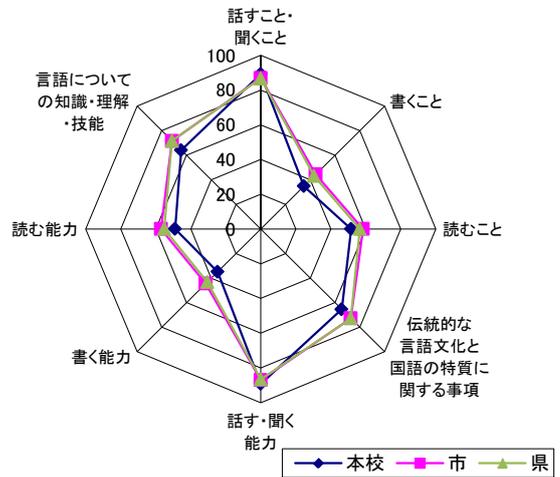


# 宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	89.2	87.0	86.7
	書くこと	34.9	44.5	43.1
	読むこと	51.6	58.5	56.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.4	72.8	72.8
観点	話す・聞く能力	89.2	87.0	86.7
	書く能力	34.9	44.5	43.1
	読む能力	49.0	57.0	55.1
	言語についての知識・理解・技能	64.3	71.7	71.7



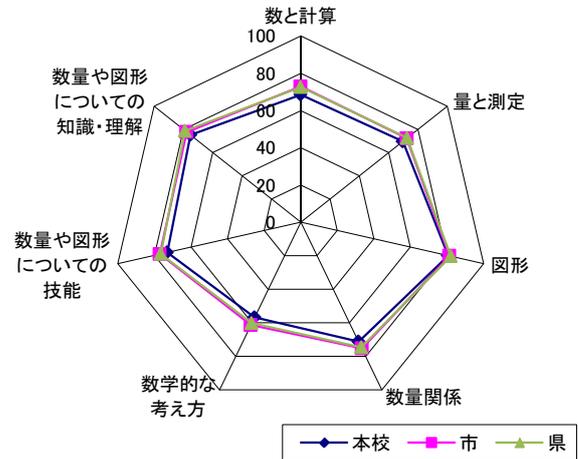
## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話すこと・聞くことは、市や県の平均を上回った。 ●話の中心に気を付けて聞くことが87.1%できたが、県の平均をやや下回った。	・互いの考えの共通点や相違点を整理して聞くことはできているので、ペア、小グループ、全体などで話合う機会を多く設け、話の中心に気を付けて相手の話を聞くよう意識付けを図っていきたい。
書くこと	●書くことは34.9%で、県の平均を8.2%下回った。 ●資料から読み取ったことを報告書にまとめる問題が21.0%で県の平均を23.1%下回っており課題が見られた。 ●作文は23.4%で、県の平均をやや下回った。	・広告やリーフレットなど身近な資料を活用し、内容を読み取ったり、キーワードを提示して簡単に報告書をまとめたりする機会をもつようにする。 ・書くことが楽しくなるような題材を用意したり、時間を区切って書いたりすることで、書く力を伸ばしたい。
読むこと	○物語の内容の理解において、場面の様子を叙述を基にして読むことは75.8%で、県の平均とほぼ同じであった。 ●読むことは51.6%で、県の平均より5%下回った。 ●説明文では、目的や必要に応じて文章の内容を読むことが66.1%で、県の平均を10%下回った。	・説明文ではつなぎ言葉や文と文のつながりに着目させ、内容をより理解させていきたい。 ・文章の中のキーワードとなる言葉に線を引いたり、段落ごとに要点をまとめたりする活動を通して、中心となる言葉の理解を高めたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○反対の意味の言葉の理解は、県の平均とほぼ同じだった。 ●伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項は65.4%で、県の平均より7.4%下回った。 ●漢字の読みや書きは、県の平均を16.7%下回るものがあった。 ●主語・述語についての理解は、県を12%下回った。	・漢字のへんやつくりは読み方や意味に関係していることに注目させながら、日常的に漢字を使う習慣をつけさせたい。 ・文の組み立てで主語・述語・修飾語の関係に注目させ、繰り返し問題に取り組ませたい。

# 宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.5	72.9	72.6
	量と測定	69.6	72.4	72.6
	図形	80.6	81.4	82.1
	数量関係	71.2	75.2	74.6
観点	数学的な考え方	56.7	61.3	60.2
	数量や図形についての技能	73.0	77.0	76.5
	数量や図形についての知識・理解	75.2	77.8	78.8



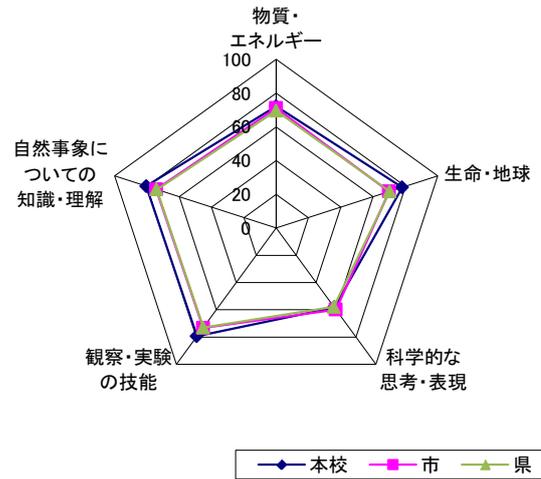
## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○同分母の真分数同士の引き算は91.9%と市平均と同レベルであった。小数のしくみについては90.3%と市平均をやや上回っており概ね理解できている。</p> <p>●数の相対的な大きさの理解についての正答率が69.4%、数直線上に示された分数の表し方の正答率が41.9%とそれぞれ市の平均正答率より約10%低い。</p>	<p>・基礎的な計算問題のドリル学習を徹底し、分数の仕組みを理解させたり、分数の計算に慣れさせたりする。</p> <p>・朝の学習の時間を活用し、随時復習問題に取り組みさせることで、さらに基礎的な計算力を習熟させていきたい。</p>
量と測定	<p>○時間の分と秒の単位関係の正答率が95.2%と、市の平均正答率より2.2%高い。</p> <p>●ある時刻から一定時間後の時刻を求める正答率が75.8%と、市の平均正答率より7.6%低い。また、2つの時間を求め、比較する問題についても正答率が29%と市の平均正答率を13%下回っている。</p>	<p>・時刻と時間については、随時問いかけて考えさせる機会を多くするなど、日常生活の中で具体的に振り返らせ、意識づけを図る。</p>
図形	<p>○二等辺三角形の作図の正答率が93.5%と、市の平均正答率より6%高い。</p> <p>●円の直径についての理解の正答率が72.6%と、市の平均正答率より6.7%程度低い。また、球の半径と直径の関係の理解の正答率が61.3%と市平均正答率を6.3%下回っている。</p>	<p>・円や球の性質を具体物を利用して理解させ、半径や直径の関係を理解させる。また、実際に作図する機会を多く取り入れる。</p>
数量関係	<p>○わり算の文章問題を表した図の理解の正答率は71%と市平均の正答率より5.8%高い。</p> <p>●□を使った乗法の式に合った文章問題を選ぶ問題の正答率が38.7%と市の平均正答率より14.7%低い。</p> <p>●文章問題を解くために除法の立式をし計算して答えを求める問題の正答率が71%と、市の平均正答率より7.4%低い。</p> <p>●棒グラフを読み取り指示された条件に該当する項目を示す問題の正答率が75.8%と、市平均正答率より5.9%低い。</p>	<p>・□を使った式についての計算をドリル学習で、計算の習熟を図る。</p> <p>・文章問題に多く触れさせることで、図で表したり、式にまとめたりする学習を多くとる。</p> <p>・棒グラフについては、社会の資料の読み取りとも関連させながら、理解の習熟を図る。</p>

# 宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	72.2	71.1	69.6
	生命・地球	78.0	70.0	70.3
観点	科学的な思考・表現	58.2	59.8	57.8
	観察・実験の技能	79.4	73.2	73.0
	自然事象についての知識・理解	80.4	74.3	74.0



## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○領域全体では72.2%で、県の平均正答率より2.6%高い。</p> <p>○ものと重さの問題では県の平均正答率を上回り、特に物は形を変えても重さは変わらないことへの理解は100%だった。</p> <p>○光の性質と磁石の性質の問題ではほぼ県の平均正答率と同じだった。</p> <p>●電気の通気の問題では、電気を通すものと通さないものを理解し、豆電球の明かりのつき方を説明する問題が17.7%で、県の平均正答率より6.5%低い。</p> <p>●2つに仲間分けされた身近なものの様子から、どのような性質を利用して分けたかを推測する問題が67.7%で、県の平均正答率より11.7%低い。</p>	<p>・実験の際、それぞれの実験を行う意味や内容を理解させ、自分なりの予想を立ててから実験に取り組ませる。また、実験の結果のまとめでは予想と比較する機会を設ける。</p> <p>・電気の通り道に関する実験では、豆電球に明かりをつける実験や、身近なものを電気を通すか通さないかで分ける実験を丁寧にやり直しを図っていききたい。</p>
生命・地球	<p>○領域全体では78.0%で、県の平均正答率より7.7%高い。</p> <p>○昆虫についての問題では県の平均正答率を上回り、特に昆虫の生活場所と成虫のあしの様子については県の平均正答率より12%程度高い。</p> <p>○身近な自然の観察は県の平均正答率を上回り、特に虫眼鏡の正しい使い方については72.6%で、県の平均正答率より23.6%高い。</p> <p>○太陽と地面のようすについての問題では県の平均正答率を上回り、特に一日の太陽の動きが13.7%県の平均正答率より高い。また、温度計の目盛りを正しく読む問題が19.6%県の平均正答率より高い。</p>	<p>・今後も実験や観察への興味を高めながら活動に取り組ませていきたい。</p> <p>・正しい実験のやり方や観察の重点を押さえてから取り組みませ、気づいたことを自分の言葉でまとめていくようにさせる。</p>

## 宇都宮市立西が岡小学校 第4学年児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「しょう来のゆめや目ひょうをもっている」の設問に肯定的に回答した児童の割合は95.2%と、市の平均を5%上回っていた。自分の将来像に対して、興味関心が高いことがうかがえる。その良さを捉え、今後のキャリア教育の素地を築いていきたい。

○「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」の設問に肯定的に回答した児童の割合は88.7%と市の平均を5.4%上回っていた。家庭における保護者と児童の関わりが良好であることがうかがえる。親が子どもの良さを捉え、伸ばそうとする意識が高いことが分かる。

○各教科の学習は、「しょう来のために大切だと思うか」の設問に対しては、概ね市の平均より高い肯定率を示しており、学習の必要性については気付いている。その意識が、実際の授業のなかで生かされ、意欲が高まるように支援していきたい。

●「家で、自分で計画を立てて勉強している」の設問に肯定的に回答した児童の割合は46.8%と市の平均を17%程度下回っていた。具体的な計画の立て方を学校で教え、自主学習の習慣の定着を図りたい。

●「家で学校のじゅ業のふく習をしている」の設問に肯定的に回答した児童の割合は41.9%と市の平均を15%程度下回っていた。宿題で復習の課題をやってはいるが、自主的に家庭学習において復習に積極的に取り組めるよう声をかけていきたい。

●「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」の設問に肯定的に回答した児童の割合は45.2%と、市の平均を17%下回っていた。テストのまちがい直しをしてから家庭に戻すようにして、内容については理解を図っている。まちがえた問題をもう一度自分なりに復習できるように声をかけていきたい。

●「学校の宿題は、やりたくなるような内容だ」の設問に肯定的に回答した児童の割合は69.6%と、市の平均を18%下回っていた。機械的な漢字練習や計算練習だけではなく、ワークシートを工夫するなど、楽しく学習に取り組み学習意欲を高める効果的な宿題を考えていきたい。興味を追求する内容や、授業の予習を組み合わせたい。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強にかんするじょうほうをえている」の設問に肯定的に回答した児童の割合は24.2%と、市の平均を16%下回っていた。また、「分からない国名や地名があつたら、インターネットや地図帳などを使って調べている」の設問に肯定的に回答した児童の割合は32.3%と市の平均を15%下回っていた。社会・総合的な学習の調べ学習を中心に、本やインターネットを活用し、必要な情報を収集する機会を増やし、その有用性について気付かせていきたい。